

2021. 4. 18 (日) マタイ24:23~28

24:23 そのとき、だれかが『見よ、ここにキリストがいる』とか『そこにいる』とか言っても、信じてはいけません。

24:24 偽キリストたち、偽預言者たちが現れて、できれば選ばれた者たちをさえ惑わそうと、大きなしるしや不思議を行います。

24:25 いいですか。わたしはあなたがたに前もって話しました。

24:26 ですから、たとえだれかが『見よ、キリストは荒野にいる』と言っても、出て行ってはいけません。『見よ、奥の部屋にいる』と言っても、信じてはいけません。

24:27 人の子の到来は、稲妻が東から出て西にひらめくのと同じようにして実現するのです。

24:28 死体のあるところには、禿鷹が集まります。

<説教>

先主日に学んだ箇所(24:15-22)で、主イエス・キリストは、ご自分が再びこの地上に到来なさり、世が終わる時のしるしとして「荒らす忌まわしいもの」、すなわち「反キリスト」が現れることを明らかになさいました。

反キリストは「聖なる所に立って」、すなわち神の座に自分が立ち、自分を神として(または自分を神と並べて)礼拝することを人々に(真の神の民にまでも)要求します。

または神の座に偶像を据え、偶像を礼拝することを人々に(真の神の民にまでも)要求します。

使徒パウロは言います。

「どんな手段によっても、だれにもだまされてはいけません。まず背教が起こり、不法の者、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないのです。不法の者は、すべて神と呼ばれるもの、礼拝されるものに対抗して自分を高く上げ、ついには自分こそ神であると宣言して、神の宮に座ることになります。」(Ⅱテサロニケ 2:3,4)

使徒ヨハネも言います。

「幼子たち、今は終わりの時です。反キリストが来るとあなたがたが聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今は終わりの時であると分かります。」(Ⅰヨハネ 2:18)

このような反キリストの出現が、イエスの弟子、イエスに従う者、キリスト者に闘いを要求することになります。

それは悪魔とその手下ども(悪霊であれ人間であれ)との霊的な闘いです。

悪魔、反キリストとイエス・キリスト、キリスト者との間には決して妥協できない「敵意」(創世記 3:15)があるのです。

「荒らす忌まわしいもの」「悪魔の会堂」「悪魔の民」「この世」とは一刻の猶予も物惜しみもなく、後ろを振り返ることなく、「足のちりを払い落として」出て行き、縁を切り、逃げなければなりません。

しかし、そうやって肉の思いに逆らい、反キリストの誘惑に逆らい、「この世」に逆らい、「世間様」に逆らってキリストにつき従っていくことは闘いです。

この点で、私たち日本のキリスト教会、キリスト者もかつて現実に、「荒らす忌まわしいもの」を聖なる所に立ててしまい、反キリストの出現を見てしまいました。

つまり、先の戦争のとき、ある教会は会堂内に神棚を置いたりし、礼拝の中で天皇讃美歌である君が代を歌ったり、皇居の方角に礼をしたり、天皇の写真を拝んだり、神社参拝をしたりしていました。

更に、そんな偶像礼拝を隣国（今の韓国・朝鮮）の教会にも勧めたのでした。

そういう歴史を省みて悔い改めるなら、私たちは、悪魔と、反キリスト、悪魔の言いなりになっているこの世の人々による一層激しい攻撃、迫害を、そしてついには〈大きな苦難〉をいつも、また再び覚悟しなければなりません。

その〈大きな苦難〉は 〈もしその日数が少なくされないなら、一人も救われない〉ほど大きなものです。

しかし、〈選ばれた者たちのために、その日数は少なくされ〉とイエスは約束してくださいました。(22)

〈選ばれた者たち〉とは、「世界の基が据えられる前からキリストにあって神がお選びになった者たち」(エペソ 1:4 参照)です。

ですから、〈選ばれた者たち〉とはキリストを「避け所」(詩篇 91:2)とし、キリストのところへ〈逃げる〉者たち、キリストを「脱出の道」(I コリント 10:13)とする者たち、キリストに望みをかける者たちです。

そんな、キリストに望みをかける〈選ばれた者たち〉こそは、〈大きな苦難〉の中で〈偽キリストたち、偽預言者たち〉にだまされないように、惑わされないようにしなければなりません。

そのことをキリストは〈前もって話し〉、注意なさるのです。

24:23 そのとき、だれかが『見よ、ここにキリストがいる』とか『そこにいる』とか言っても、信じてはいけません。

24:24 偽キリストたち、偽預言者たちが現れて、できれば選ばれた者たちをさえ惑わそうと、大きなしるしや不思議を行います。

24:25 いいですか。わたしはあなたがたに前もって話しました。

とくに 多くの人を惑わしている〈偽キリストたち、偽預言者たち〉は〈できれば選ばれた者たちをさえ惑わそう〉とするとイエスは言われます。

何か逆説的な感じですが、大きな困難の中でキリストだけを求め、キリストだけにすがろうとしているが故にキリストの名を用いる〈偽キリストたち、偽預言者たち〉に惑わされてしまうという危険があるということでしょう。

また、イエスを生ける神の子キリストと信じない多くの人にはキリストが行った〈大きなしるしや不思議〉を信じないでしょうが、キリストを信じる人はキリストが行った〈大きなしるしや不思議〉をもちろん信じます。

しかしそれ故に、〈大きなしるしや不思議を行〉う者を、だからそれがキリストだと惑わされて信じてしまうという危険があるということでしょう。

しかし、約 2000 年前、地上におられたときのイエスは神の子キリストとして〈大きな

しるしや不思議を行) いましたが、再び来られるキリストは昔来られたのと同じ目的で来られるのではありません。

私たちの罪のための十字架の死、そしてよみがえり、そして昇天を経て今は天におられるキリストは、今度は「生ける者と死にたる者とを裁く」、この世の最終審判のために、そして私たちキリスト者の救いの完成、神の国の完成のために来られるのです。

そのときはもやは〈大きなしるしや不思議を行) っているときではありません。

そう考えると今や〈大きなしるしや不思議を行) って「私が再臨のキリストだ」などと言う人物は明らかに〈偽) 者です。悪魔の手下です。反キリストです。

私たちは十字架と復活と昇天と、そして再び到来なさるキリストだけを待ち望み、希望をかけるのです。

私たちはキリストにあって〈選ばれた者たち) であることを信じなければなりません、だからと言ってそれで霊的に眠りこけていてはなりません。

反対に、霊的にいつも目を覚まして、〈大きな苦難) の中でも〈悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身につけ) (エペソ 6:11) るようにしなければなりません。

〈私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するもの) (エペソ 6:12) だからです。

さて、イエスは続けて言われました。

24:26 ですから、たとえだれかが『見よ、キリストは荒野にいる』と言っても、出て行くてはいけません。『見よ、奥の部屋にいる』と言っても、信じてはいけません。

24:27 【なぜなら】人の子の到来は、稲妻が東から出て西にひらめくのと同じようにして実現するの【だから】です。

24:28 死体のあるところには、禿鷹が集まります。

キリストが再びこの地上に到来(再臨)なさるのは、〈荒野) で宣教するためでもなく、また〈奥の部屋) で祈るためでもありません。

そして初めの到来(初臨)のときのように赤ちゃんとして生まれ 30 年も経ってから人々の前に現れるのではありません。

〈荒野) や〈奥の部屋) から出て来られるのでもありません。

〈稲妻) のように天から地に向かって、直ちに来られるのです。

〈稲妻が東から出て西にひらめくのと同じようにして) 突然、誰の目にも明らかに分かるように到来なさるのです。

〈主の稲妻は世界を照ら) す(詩篇 97:4) ともありますが、〈偉大な力と栄光とともに) (30)キリストは天から地に到来なさるのです。

そして多くの人を惑わし、選ばれた者たちをさえ惑わそうとして来た反キリストを〈稲妻) のように一瞬に打ち、裁くのです。

〈見かけは敬虔であっても、敬虔の力を否定する者) (Ⅱテモテ 3:5) を打ち、裁くのです。

〈見かけは敬虔であっても、敬虔の力を否定する者) も、「終わりの日に来る困難な時

代」(3:5)に現れる人々とされています。

当時で言うなら律法学者やパリサイ人のような人々であり、〈強盗の巣〉と化したエルサレム神殿、そこで〈死体〉と化したイスラエルの宗教もそんなものでした。

そういうものたちに下される、この再臨のキリストによる最終審判は、〈死体のあるところ〉には確実に〈秃鷹が集まる〉のと同様に確実なのです。

今のこの〈世の終わりの時〉、反キリストの現れと共に〈大きな苦難〉の中に置かれる私たち〈選ばれた者たち〉はこのキリストの確かなみわざに望みを置くのです。

世の終わりの時代に生かされている私たちキリスト者の希望は、キリスト故の〈大きな苦難〉が取り去られることではありません。

不法がはびこり、多くの人の愛が冷える中で、神を愛し、人を愛して〈大きな苦難〉を最後まで耐え忍び、福音を宣べ伝え、証しするのです。

そのようにしつつ、私たちの罪のために十字架で死なれ、よみがえり、昇天し、天の父なる神の右に着座し、御父の定めるときに再び地上に必ず来られ、私たちを苦しめる悪魔、反キリストどもを一瞬のうちに打ち負かし、一方私たちをも正しく審判して救いを完成してくださる主イエス・キリストの〈栄光ある現れ〉(テトス 2:13)を私たちは待ち望むのです。